

## 第5回屋内スケート施設あり方検討会議概要

### 1 事務局からの説明

総務常任委員会での意見、県民からの意見及び令和5年度実施予定の事業費や収支のシミュレーション、経済波及効果などに係る基礎調査について説明。

### 2 構成員からの意見

#### 【井上 圭子 氏】

思っていた以上に多くの方々から意見があったことにとっても驚いている。皆さんの興味が高いことがうかがえると思い、大変興味深く資料を見せていただきました。

スケートの関係者と思われる方の意見も多くありますが、それ以外のいちファンの方からの意見と思われるものも大変多く、それも県内からではなく県外の方であったり、皆さん注目されているということが大変よくわかりました。

また、スケートの関係者以外の方と思われる方からの意見でも、他県のリンクはこういう施設で、この程度客席があるから、大会やアイスショーを開催しているといった具体的な例が示されていて、皆さん詳しく勉強されていると驚きました。

唯一反対意見として、スケートリンクではなく他の施設もというような意見もありましたが、それはもちろんごもっともであり、他の施設も老朽化しているという話も耳にしますので、それはそうと私も受け止めましたが、それを上回るスケートリンクに対しての熱い意見が多くあったことから、大変注目の高さがうかがえたと思っております。

施設に関して、複合施設にしたほうがいいのかという意見の中にも、他の競技、例えばバスケットやバレーボールなど他の競技との複合という意見だけではなく、温泉やカフェとの複合、また、通年にしたほうがいい、冬季のみがいい、観客席数はこれぐらいがいいなど、それぞれ皆さんきちんとした理由があって、こういった御意見を出してくださっていて、非常にしっかりした意見で驚いております。

また、アイスショーなどを開催すれば、リンクだけではなく、その近隣のホテルや飲食店などの経済効果も見込めるのではないかなど、どれも大変興味深い意見で、先ほど、今後、調査を実施していくということでしたけれども、しっかりと調査をしていただいて、議論をしていただいて、これからの結果に結びつけていければいいのかなと思いました。

立地についてですが、酒田のswansケートリンクが閉鎖になるという情報があったことからと思いますが、酒田市や鶴岡市に造って欲しいという意見が大変多く見受けられました。

他の意見にもあったように、もし建設するとすれば、やはり立地が一番大事になってくると思いますので、建設したとしてどのくらいの利用者が見込めて、どんな効果があって、どれくらい持続可能に利用してもらえるかなど、しっかりと調査をして、それに適した立地を、意見からだけではなく、いろんな方向から見て考えていただきたいと思いました。

ただ、こういった意見が庄内地域の方からたくさんいただいたということは、やはりswansケートリンクがどれだけ庄内地域の方々に愛されていたのかということがすごくわかるなと思いました。もちろん、費用もかかるアイススケートリンクですが、そこにリンクがあるというだけで、こんなにも皆さんに身近に感じていただいて、スケートに対して身近に思って、愛していただいていたということが、この意見の多さからもわかります。

やはり、スワンスケートリンクも老朽化から、なくなってしまうという話もありますが、このまま山形県からスケートリンクがなくなってしまうということは大変残念な話でもありますし、もちろん維持管理、様々な費用がかかりますが、そこにスケートリンクがあるというだけで、まずはその大きな意義があると、このたくさんの意見を読ませていただいて感じました。

私もスペシャルオリンピックスという福祉関係の方に携わっておりますので、福祉関係の方からの意見を述べさせていただきます。スペシャルオリンピックスの方からも2件、意見をいただいております。ぜひ造って欲しいという意見です。具体的に、もし造るとすれば、人ごみが苦手な障がい者もいるため、小会議室的な部屋があるといいという意見ですが、こういった当事者の方の具体的な案はすごく大事だと思ひまして、私も普段あまり感じなかったことでもありますので、こういった当事者の方の具体的な案を大事にさせていただきたいと思ひます。

知的障がいを持っている方たちは、その環境に適することがすごく苦手な方が多く、普段と違って、大勢の人に囲まれてしまったり、あとは天候で普段天気の良い中でスケートをしているのに、急に雨が降ってきた、急に雪が降ってきたとなると、なかなかそれに対応できずパニックになってしまう方もいます。そういったことを考えると、屋外のリンクではなく、全天候型の屋内のリンクをぜひ造っていただきたいと思ひます。

障がい者の方は、なかなか取り組めるスポーツが限られてきますので、障がいをお持ちの方でも、それから他の方からもたくさん意見があった高齢者の方も楽しめる、誰もが楽しめるスポーツでありますので、そういったものを一つでもなくして欲しくない、減らして欲しくないと思ひます。

全体的に見て、冬季間、体を動かせる、天候に左右されることのない施設が山形には少ないので、ぜひ造って欲しいという意見が多いと感じます。私も同じく感じておりますし、皆さんもそのように思っていて、意見をくださったと思ひますので、山形はどうしても雪が多いので、屋内で大人から小さな子どもまで、障がいの有無に関わらず利用できるスケートリンクをぜひ造っていただきたいと思ひました。

単にスケートリンクといいましても、フィギュアスケート、アイスホッケー、カーリング、スピードスケートなど、多くの種目がありますので、皆さんが気軽に接することができるスケートリンクを、これから調査を実施することですので、今後、慎重にとはなると思ひますが、ぜひ前向きに検討していただきたいと思ひます。

## 【加藤 文子 氏】

御意見を拝見して、屋内のスケートリンクを造ることに關しまして、想像以上に、それから肯定的な意見が非常に多く寄せられたと感じております。

肯定的な意見の理由としては、老若男女が楽しめる生涯スポーツとして、また子どものうちにいろんなアクティビティを体験する選択肢が増える、そういうことを歓迎するという意見が多かったと思ひますが、これはこの検討会議の報告にまとめました、整備効果と同じことを感じてくださっているということで、その点についてはよかったと思ひております。

様々な御意見がありますけれども、通年で氷を張って欲しいという意見も多く見られました。一方では、施設の持続可能性を考慮すれば、冬季のみでいいのではないかという意見もありまして、これについては意見が分かれているのかなと思ひます。これはまさに報告書で課題としているところに関わるところ、そして施設の具体的な仕様にも関わるところですので、夏季にどれだけ利用者が確保できるか適切に見定めて、今後検討していくことが必要だろうと

思います。カーリングシートを設置して欲しいという御意見についても同様と考えるところで

です。今回は県外の方からも、スケートリンクの設置に期待する意見が複数寄せられているというところを見ますと、競技者の方を対象にすると、利用者の物理的な集客範囲はかなり広く想定できるとも感じています。今後利用者の確保等を検討する際にも、こうした点は参考になるのではないかなと思いました。

最後になりますが、今回、既存のリンクがなくなるかもしれないということで思いの丈をこちらに寄せてくださった意見がたくさんあったということで、御意見を読んでいきますと、スケートリンクはこうした非常に強い愛着を持たれる施設ということを改めて感じているところ

です。これから設置を検討していく新しい屋内スケートリンクにつきましても、このように県民に愛される施設にならなければいけませんし、そういう重みを受け止めてしっかり運営していかなければならないと感じたところです。

### 【佐藤 裕恒 氏】

資料を見させていただいて、前向きな、肯定的な意見が多いということを感じたのと同時に、冬季スポーツのあり方といいますか、スケートをやれる場所がない、冬季競技の場がないということを感じさせていただきました。

私は高体連の会長の立場で、中学生、高校生のスポーツという視点で、競技力向上の面からお話をさせていただきたいと思います。

意見の内容を見ますと、生涯スポーツ的なところが多いという中で、現在の中高校生を取り巻くスポーツ環境を考えますと、皆さん御存知の通り、部活動を地域に移行していく流れにあります。もうこれ以上学校では部活動を増やしたり、あるいは教師の負担感が多くなるような活動運営はかなり厳しくなると思います。そういった中で、地域に移行されるというところを、競技団体等でクラブを作っていくということが非常に大事な視点になると思います。

そういったことを考えたときに、報告書の 37、38 ページに、競技団体の方の考えがまとめられているわけですが、今後、こういった専門的に携わる団体が、本県でどのような活動ができるのか、あるいは、指導、普及、競技者の育成という部分で、どういう考えを持っておられるのかということが重要になってくると感じています。

子どもの頃に、なぜこのスポーツを始めたのかということ振り返ったときに、やはりお母さんから、例えば私はバレーボールですけども、バレーボールに行きたくなくても連れて行かれて、そこでバレーボールを始めまして、あとでだまされたと思いながらバレーを続けたということがあるわけです。

やはり、スケートに連れて行かれて、そこで魅力を感じて、スケートを続ける。そして、もっと強くなりたいと思ったときに、そこに強化できる、育ててもらえる環境があるということは、非常に大事なことだと思います。スピードスケートについては、そういう環境があったがゆえに、強くなってきたという背景があると思います。

今後、屋内のサブリンクができれば、山形でフィギュア、あるいはアイスホッケーをやってみようと思う子どもが集うには、そういう組織だった対応が重要になるのではないかなと感じます。

今後進めていく上で、持続可能という部分に関わるとは思います。やはりそこには競技団体

であり、当然、我々高体連あるいは中体連も一緒になって施設運営に繋がる競技者の発掘と育成の部分でも協力していかなければならないと感じたところです。

施設のあり方については、様々御意見をいただいている中で、他の競技からも様々な意見があると聞いております。体育館、あるいは、武道館ということも考えますと、やはり複合的な施設ということも考える必要があるのかなと感じたところでした。

こういった、冬季競技が行われる、あるいは通年、そして、なかなか冬に運動しない、しばらくという中で運動できるという場があることは非常に健康にもいいですし、中学生、高校生、特に小学生もスクリーンタイムが増えている状況にはあるわけですし、そういう部分の解消にも繋がる、非常に大事なことと感じました。

## 【須藤 勇司 氏】

皆さんからもありましたとおり、90人から分類上125件の意見をいただくということで、本当にこの屋内スケート施設に対しての期待の大きさがうかがえると感じております。スポーツ協会としても非常にありがたいことと思っております。

今回の御意見を見せていただきますと、通年でリンクの希望という意見もあります。私の受け止めとしては、主としてその競技スポーツとしての観点からの御意見かなというふうに思いますが、その一方で季節によってはその多目的型での施設ということに対しても、いろんなアイデアを含めた御意見が出されているということで、この点については今後いろんな形態、期間の設定なども含めて、しっかりとシミュレーションを行わなければならない部分だろうと思います。

ここが施設の機能の基本の部分にもなろうかと思っておりますので、来年度以降、しっかりとしたシミュレーションを進めていただければありがたいと思います。

御意見の中には、施設としての機能として、例えば先ほどの会議室のような意見も含めていろんな御指摘があると思いますので、これから造る施設でありますので、充実したものを皆さん求めていらっしゃると感じました。

当然こういう施設は、これから10年や15年ではなく、何十年という単位で利用していくこととなりますので、当然のことと思っておりますが、その一方で、今後のいろんなニーズの変化も、時代によって出てくるでしょうから、具体的な施設の検討にあたっては、そういった機能面での汎用性のようなところも考慮していく必要があると感じたところです。

それから、カーリングにつきまして、意見が15件ということで、非常に興味あるいは期待が高いということを改めて感じたところであります。新しい施設ということですので、新しい競技に対しての機能というものも非常に期待されているということを改めて感じております。

今、佐藤委員の方からもお話ありましたけれども、ソフト面での意見も非常に多く出されておりました。例えば、指導者を配置するとか、レベルに合わせた教室を開催するとか、あるいは学校と連携をするとか、子供会での活用を図る、こういった具体的な御指摘の意見もありますので、関係団体、競技団体、あるいは学校、私も1回目のとき申し上げたスポーツ少年団もそうかと思っておりますし、いろんな関係が考えられるような団体との連携、協力といったことについて、運営面での検討ということになると思いますが、今後できるだけ早いうちに検討を始めるべきではないかと感じたところであります。

全体として非常に皆さんの期待が大きく、できるだけ早く具体化することが、期待に応える方向ではないかと感じました。

## 【山川 唯美 氏】

多くの方が、この件について興味を持っていらっしゃるということと、あとは、意見の中でもこれまで利用した方が、経験を踏まえて御意見されていることが多いということを感じました。例えば、私もそうですけれども、子育てをされている方、お孫さんを育てていらっしゃる方が、子どもたちに経験をさせたことが、大人になって、今も続けているという意見があります。やはり、子どもの頃の経験、選択肢を増やすということが、大変必要なことなのかなと意見を見て思ったところです。

私自身も属するコミュニティの中でも、この冬季間、落合のスケート場の話題が上がっておりまして、今週はこんなイベントがあるよとか、無料で滑走できるよといったイベント自体の情報が上がっていて、その情報を得た母親たちが自分の子どもを連れてスケートに行っていました。

そういった意味でも、山形の人たちにスケートがまだ身近にあって、愛されていると思ったところですので、この熱が冷めない状態で、いただいた意見も踏まえて検討を引き続きしていただければと思います。

今朝も浅田真央さんのアイスショーのニュースが流れていましたが、そういった知名度の高い方が山形にいらっしゃるような機会をつくれたい、報告書の方にもありますけれども県民がワクワクするような仕組みをぜひ、この中に取り入れて検討を続けていただければと思います。

井上さんも仰っていましたが、多様な方が、多様な目的で使えるような場づくりということも必要な要素かなと感じたところです。赤ちゃんは難しいかもしれないですけど、小さいころ、歩き出して、そこから御年配になるまで生涯スポーツとして続けられるような、スケートに限らず使えるような、場づくりや、長く愛される施設ということが必要と感じたところです。

ぜひ今後も慎重に検討していただいて、私も、息子が今4歳ですけれども、子どもが通えるような、そういった場ができたらいいなと思っております。

## 【藤木 秀明 氏】

必要性などの位置付けについては他の方からもありましたので、私は具体的にどう進めるかということに絞って申し述べたいと思います。

申し上げるまでもなく、このスケート場、特に屋内施設については、どう工夫したとしても整備、運営に多額の費用が見込まれますので、他の方がおっしゃった総論部分でのお話をできるだけ具体的に形にしていくこと。

そういったところに、どのような枠組みと、プレイヤーが必要かといったことをきちんと動機づけるためには、それぞれのプレイヤー、関係の方、もちろんスポーツ協会もそうですし、利用者の方もそうですけれども、役割分担と連携をどのように進めるか、といった検討を具体的に進めていく必要があると思います。

そういった中で、おそらく仮に官民連携手法などの場合、PFI事業者なのかあるいはそれに類するような指定管理者などいろんな形があると思いますが、運営にあたって、できるだけスケート場を整備したことによる影響、近年ではインパクトという言い方をするようになってきておりますけれども、そういったものをできるだけ最大化して、それによって運営事業者が得になるようなことも含めて、来年度以降、検討が必要と思います。

あわせて、簡単に明日、来年できるというものではありませんので、もし整備の方向に進む

のであれば、県民の皆様がスケートに対する興味関心を持ち続けて、スケートを通して健康になっていくというようなアクションについては、できるだけ今できるものから打ち出していくことも必要ではないかと思えます。

施設ができた頃には、スケートをやっている人が少ない、今以上に少なくなっていたということでは、なかなか厳しいものがあるかと思えます。前の検討会でも申し上げましたが、例えばテストイベント的なものをするとか、今の山形にいる子どもさんは、もしかしたら子どもの時間は限られているということもあろうかと思えますので、スケートの裾野の拡大など、例えば子供会や教育の中でスケートを取り入れていくといったことについては、できるものはどんどん始めていくといった迅速な機動力も必要と思っています。

私が申し述べるまでもないことかもしれませんが、いろいろ悪い事情が重なって、建設費や運営費、運営費の中でも大きなものを占められるエネルギー関係のコストが相当に上がっております。そういったものを抑制する観点から、意見の中にもあったと思えますが、例えば山形であればたくさん雪が降って、その雪のエネルギーを使うといったことを検討する可能性はあろうかと思えます。そういったものをできるだけ使って、例えば地産地消のエネルギーをできるだけ使うことによって、屋内スケート施設にかかる費用を、この山形ならではの方向で取り入れることによって、抑えつつやっていくといったことも来年度検討の中で取り入れていければいいのかなと思っております。

#### 【山田 浩久 会長】

皆さん共通して、90名もの方の御意見があったということ、さらには、事務局から、ありましたように議会でも非常に大きな関心を持って、何よりもこの会議の非常に活発な議論という部分に私も非常に驚いておりました。

それだけ、東北という地にあって、このウインタースポーツを楽しめる場所、あるいはそのスポーツを強化する場所というものに対する期待が大きい証なのではないかと考えております。

最後に私の方から繰り返しになりますが、公共施設は、儲けるための施設ではないということ、従来、スケート施設があって、2017年、平成29年の3月で閉鎖したスケート施設をもう一度設置するという県の判断は、私は英断だと考えております。

もちろん、老朽化や採算性というような部分はあろうかと思えますが、合理性と効率性だけを考えて、必要なものしかない土地に住んで、果たして幸せというのは、高まっていくのでしょうか。

幸福感や、そこに住んでいる実感というのは、必ずしも効率的で合理的なものだけで生活が豊かになるわけではないということはこのあり方検討会議では、十分に議論できたのではないかと思っております。

屋内スケート施設の立地検討会議、あるいは建設検討会議ではなくて、あり方検討会議という名前が示すように、我々はそもそもスケート施設というものはどうあるべきなのか、どのように考えなければいけないのかというテーマで議論を重ねてきました。

その中で、決して経済性であるとか、効率性というものだけではなく、そもそもこういうスポーツ施設、簡単に、個人的に氷を張ったり、それを溶かしたり、といったような施設はつくれないわけで、それを県の施設としてもう一度再建するという意義、意味というものが、我々の会議の中で、少しずつ明らかになっていったのではないかと思えます。

もちろん反対の意見にもありますように、多くの方が同時に、持続可能性という部分に関して不安を感じているということも事実で、今後それらの具体的な対応については、藤木さんが指摘されたような調査が必要になってくるものと思われま

ただ、このあり方検討会議でなされた議論が、非常に重要な意味を持ってくるであろうと、例えば、費用対効果というような言葉で一括りにされるような議論であれば、もしかしたらこの施設は不要だという判断がくだされるかもしれない。

ですが、そうではない部分、佐藤さんが指摘されたようなスポーツの環境づくりでありますとか、須藤さんが発言されたような、育成、指導者の育成という部分、これは経済では測れない部分ですけれども、県民の生活を豊かにする上で非常に重要な議論だったと思います。この議論がこれからも具体的な建設内容の議論を進めるのと並行して、継続していくべきテーマなのではないかと考えております。

他のスポーツに関しても、こういう議論がこれから必要になってくるであろうし、スポーツ施設に限らず、公共施設に対して、そもそもそれはどういう意味を持つのか、経済的な意味ではなく、幸せをもたらす、県民の生活に、この会議でも、キーワードになりましたが、ワクワク感といったものを造成するためには、どういう施設が、どういう考え方が必要なのか、という議論が今後も継続していくことを望んでおります。

このまま考えると持続可能性を追求していくことは、かなり大きなハードルになると思います。それをクリアしていくためには新しいアイデアや取組み、それに賛同してくれるスポンサーの出現のようなことが必要になってくると思いますが、それを費用対効果というような言葉で考えてしまうとなかなか出てこない。

新しい考え、コラボレーションというものは、そもそもそれが何で必要なのかというところから生まれてくるものだとは私は考えております。

個人的な意見を踏まえて、私からも一言お話させていただきました。皆様の意見は大変貴重だと思います。パブリックコメントの意見も合わせまして、最終的な取りまとめに関しましては、私に一任いただいて、この後事務局の方と調整していきたいと思

以 上